

¥0

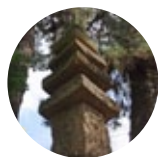
Free

No.13
2016 年秋号

散策 善通寺

時空を超え
る空海
善通寺から
みえる世界遺産

ふる里の風景を歩く



必携の
散策ガイド

秋の五岳山と瓢箪池

特集
千二百年を
垣間みる

空海の里を
再発見する





弘田川

金倉川

天霧山

弥谷寺

金蔵寺駅

金倉寺

榎湧 (永井の湧水)

曼荼羅寺

鷺井神社

甲山寺

下湧

筆の山

ひょうたん池

香色山

出釈迦寺

市民集いの丘公園

善通寺駅

我拝師山



旧偕行社

禅定寺

善通寺

四国学院大学

二頭湧

赤レンガ

金毘羅燈籠

王墓山古墳

大麻山

宮が尾古墳

地藏池

野田院古墳

葵の瀧

龍王社

琴平駅

金刀比羅宮

琴平山 (象頭山)

善通寺市散策マップ

五岳山

善通寺

善通寺と丸亀平野（飯野山より）

空海の里、善通寺市

唐より帰朝した空海が大同2年（807年）に創建した善通寺は、戦国時代の戦火で一時焼失するものの、千二百年もの間、その法灯を絶やすことなく今日に至り、寺名は善通寺市の名称にもなっています。千二百年という時間は、想像することすら容易ではありませんが、善通寺に残る記念物や建造物を通じて時代の流れを感じることができます。総本山善通寺の時代を標す記念物を巡り、現在に続く祈りの歴史を概観します。

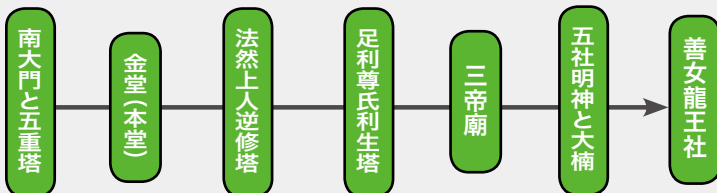
千二百年を垣間みる

善通寺東院伽藍コース

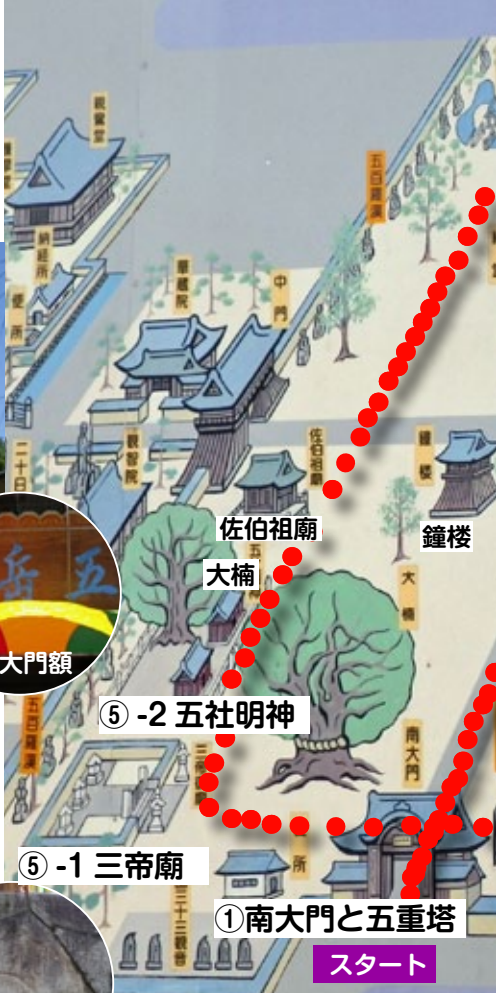
法然上人逆修塔、足利尊氏利生塔、三帝廟など善通寺特有の記念物は、祈りの歴史の一時代を表わしています。総本山善通寺の東院を巡り、空海の里に刻まれた千二百年の歴史を感じます。

コース
紹介

善通寺千二百年の歴史が見える風景



善通寺東院 伽藍コース



①南大門と五重塔(後者は重要文化財)

五重塔は、創建以来何度も焼失を繰り返し、現在のものは明治35年(1902年)に完成しました。南大門は戦国時代に焼失した後、明治に日露戦争戦勝記念として再建されました。



②金堂(本堂、重要文化財)

空海建立の金堂は鎌倉時代までは存在しましたが、戦国時代に兵火で焼失しました。現在のものは江戸時代の元禄12年(1699年)に完成しました。



③法然上人逆修塔

讃岐に配流された法然が善通寺を参詣した折、参拝者の極楽往生を祈って建てられたといわれ、法然の爪と髪が埋められています。

ゴール

⑥善女龍王社

講堂跡

天神社

三帝廟

②金堂（本堂）

釈迦堂

④足利尊氏利生塔

③法然上人逆修塔

総本山善通寺境内の案内看板



④足利尊氏利生塔

足利尊氏は、南北朝戦乱の戦没者を弔い、諸国に一寺一塔の建立を命じ、善通寺には五重塔が建立されましたが、焼失し、その形見の塔があります。



⑤三帝廟（左）と五社明神（右）

大楠の下と脇には、善通寺の寺領の安泰を祈願した氏神様を祀る五社明神と鎌倉時代に善通寺を庇護した後嵯峨、亀山、後宇多の三天皇（親・子・孫）の爪と髪を納めた石塔（三帝廟）があります。



⑥善女龍王社

現在のものは江戸時代の文久元年（1861年）の建立。空海が824年に京の神泉苑で請雨法を行なった際に現れた善如龍王を祀ったもので、しばしば雨乞いの儀式が行われました。



↓ 経塚跡

五岳山（手前から香色山、筆ノ山、我拝師山）



西院（誕生院）



経塚跡

五岳山再発見

時空を超える空海

空海の誓願と弘法大師信仰

善通寺の歴史を標す記念物や建造物は、千二百年間続く空海の仏法が、一般の信徒だけでなく朝廷や大名の帰依に支えられたことを示しています。その背景には、弘法大師信仰があるといわれます。

空海の入滅後百年ほどして、東寺長者の観賢の奏上で醍醐天皇から弘法大師の諡号が贈られました。観賢が高野山奥の院にある空海の霊廟を開けると、空海は禪定を続けていたといえます。また、衣に土が付いていたことから、今も空海は諸国を行脚しているといわれます。

入定する空海は、弥勒菩薩のすむ兜率天

に往生し、衆生を救うために、弥勒菩薩とともにこの世に出現すると遺言しました。弥勒菩薩が再びこの世で説法されるときに備えて、經典を土中に埋納する信仰が生まれたといえます。善通寺の背後にある香色山山頂で発見された経塚もその流れを汲んでいます。

こうして弘法大師信仰が育まれ、また、観賢が始めたという御影供などから空海の肖像画（御影）に特別な意味が加わります。善通寺に伝わる御影は、西行の参詣時（1168年）には既に世に知られ、鎌倉

弥勒菩薩：仏陀の入滅後、この世で法を説いて衆生を救う約束をした将来仏で、現在は兜率天という浄土で修行中といわれます。



釈迦如来が現れた我拝師山の捨身ヶ岳（奥の院禅定より）

時代には皇族や貴族の要請により度々上洛し、模写されるとともに、善通寺には寺領地が寄進されました。大楠の元に祀られる五社明神は、こうした善通寺の寺領地の安穩を祈るために勧請した地元の神々です。

弘法大師像には三種類あり、善通寺御影と呼ばれる図像には、讃岐の山中で修行する空海が釈迦如来に会ったという伝記が描かれています。西行をはじめ、善通寺を訪れた真言僧は、この伝記が伝わる空海修行の地、我拝師山に登っています。

鎌倉時代、後嵯峨、亀山、後宇多の三天皇（親・子・孫）は真言宗大覚寺の門跡となり、特に後宇多天皇は善通寺を大覚寺の末寺として庇護しました。境内にある三帝廟はこれを記念したものです。しかし、三帝による皇位の確執から南北朝の争乱が起こります。これを最終的に治めた足利尊氏は、争乱の戦死者を供養するために、諸国

に安国寺^{りしやうとう}を建立しました。善通寺には五重塔が建立されましたが、焼失したため形見として石塔が置かれました。

また、若き空海が修行をし、釈迦如来と出会った四国では、今も諸国を行脚する空海とともに巡礼するという四国遍路が生まれました。



弘法大師像



モン・サン・ミシェル（世界遺産）



聖ミカエル像



セント・マイケルズ・マウント（英）

聖ミカエルの山

モン・サン・ミシェルはサン・マロ湾（仏）に浮かぶ島で、トンボロと呼ばれる干潮時に現れる海底によって陸地と結ばれます。潮の干満差は15mもあるため、岩山上に建つ修道院を訪れたかつての巡礼者には満ち潮で命を落とす者もいたようです。

8世紀の初頭、当地の司教オベールに聖堂建立を促す大天使ミカエルのお告げがあり、この島に礼拝堂が建てられました。これが聖ミカエルの山を意味するモン・サン・ミシェルです。10世紀には、現イギリス王室開祖のウィリアム1世の祖父、ノルマンディー公リチャード2世がベネディク

ト会の修道院を建てました。ベネディクト会は、孫のウィリアム1世のイギリス王戴冠を支援し、その報償としてイギリス海峡沿いのコンウォールに領地を得ました。領内にあるモン・サン・ミシェルにそっくりな島に教会を建て、セント・マイケルズ・マウントとしました。モン・サン・ミシェルは、英仏の百年戦争で英軍の包囲を退け、さらに聖ミカエルの啓示を受けたジャンヌ・ダルクによって仏軍が勝利しました。

1979年、モン・サン・ミシェルは、ロマネスク様式の荘厳な建物が海上に浮かぶ修道院として世界遺産に登録されました。

世界遺産になった示現の聖地

神仏の啓示を受けたという伝説の聖地が世界遺産になっています。フランスのモン・サン・ミシェルは大天使ミカエルのお告げにより建てられた修道院の島です。ここは、イギリスからサンティアゴ・デ・コンポステラへ向かう巡礼路にもなっています。



釈迦如来示現の地（稚児大師像）



釈迦如来示現の風景



捨身ヶ岳禪定（山の鞍部、曼荼羅寺より）

釈迦如来示現の山

仏教においても、仏や菩薩^{ぼさつ}の夢のお告げで寺院が建立された伝説は珍しくありませんが、善通寺には山中で修行する空海の前に釈迦如来が現れたという伝記が残ります。

平安末期（1168年）に善通寺に止住した西行^{さいぎょう}（平安歌人かつ真言僧）や鎌倉時代（1243年）に讃岐に配流された高野山の高僧、道範^{どうはん}が善通寺の様子を記しています。いづれも、善通寺に参詣し、空海の誕生所を拝した後、釈迦如来示現^{じげん}の山に登っています。この空海修行中の伝承は、空海入定の四百年後には、真言僧に広く知られていました。修行の山は、空海の前に現れた釈

迦如来を拝んだことから、我拜師山^{がはいしざん}と呼ばれます。また、幼少の空海が仏門に誓いを立てて崖から飛び降りたという伝説が生まれ、如来示現の地を捨身ヶ岳^{しゃしんがたけ}とも呼びます。後に、道範は空海の誕生所に誕生院を建立するため大勧進^{だいかんじん}を務め、行蓮上人が造立した木造御影^{みえい}を安置しました（1249年）。

空海自筆とも伝わる弘法大師像（御影^{みえい}）は、東寺の末寺だった善通寺の興隆に大きな役目を果たしました。そして、この釈迦如来示現を描いた善通寺御影が、善通寺をはじめ四国という空海修行の地を広く人々に伝えてきたのではないのでしょうか。

樹林を抜ける散策路

山頂で平安時代後期の経塚が発見された香色山は、今では市民の憩いの公園になっています。ほかに、空海出自の佐伯氏の祖廟や京極家寄贈の不動明王と愛染明王の石造があり、山頂からの眺めはすばらしい。山頂までよく整備された散策路があり、山麓ではクロマツにサクラやクヌギなどが高くそびえ、山頂付近になると背丈が低いアカマツやウバメガシに変わります。山が小さく、植物観察には最適です。



ミニ八十八ヶ所

香色山麓には、江戸時代（1796年）にミニ八十八ヶ所の石仏が建立され、今も巡礼や近隣の人々が巡っています。

季節がめぐる街の公園

庭園、ひとくちメモ（13）

生物との触れあいを目的とした庭園に、ワイルド・ガーデンがあります（右写真：英王立園芸協会）。日本では生態公園が同様のものとされ、香川県では国営讃岐まんのう公園や香川県立森林公園などの一部に設けられています。野趣あふれる散策路が配置され、そこに生息する動植物を見ることができます。ただ、マムシやイノシシなどの危険な動物もいるので、季節によっては注意が必要になります。

イギリスの落葉樹の森は明るく、足下も



ワイルド・ガーデン（英国）

見やすいのですが、常緑樹に被われやすい日本の暗い森では、下草の管理が大切になります。常緑樹が増えつつある香色山の森では、森全体の将来を見すえた管理がなされ、安心して散策を楽しめます。

比べてウォッチ！



ぶつとう 仏塔

釈迦の遺骨または代替物を納めた建物を仏塔といいます。仏塔を意味する梵語ぼんごのストゥーパは卒塔婆と音訳され、略して塔と呼びられます。インドのストゥーパそとばは、中国で宝塔や層塔へ形を変え、日本では五重塔や多宝塔となります。多宝塔は日本独自の様式ともいわれ、高野山の根本大塔が原型のようです。近代では、太平洋戦争の英霊を祀るためにインドのストゥーパを模した仏塔も建てられています。

風景をたのしむまめ知識



黒炭と白炭

香色山の麓付近では、クヌギやコナラがそびえ、頂上付近ではウバメガシがみられます。クヌギやコナラは生長が速く、風当たりの弱い山麓では高木になります。一方、生長の遅いウバメガシは、海辺や山頂付近の風が強い所でもよく生長します。古来、いづれも炭として燃料にされましたが、生長が速く、柔らかいクヌギなどは着火の良い黒炭にされました。一方、生長が遅く、硬いウバメガシからは、火持の良い白炭びんちょうたんの備長炭びんちょうたんがつけられました。

ウバメガシなどからつくられる白炭には無数の細孔があり、周囲の空気や水の臭みをとる効果（消臭効果）があるといわれます。

持ち物リスト		
服装	登山グッズ	その他
<input type="checkbox"/> 帽子	<input type="checkbox"/> 地氈	<input type="checkbox"/> 非常食
<input type="checkbox"/> 防寒着	<input type="checkbox"/> 雨具	<input type="checkbox"/> 救急セット
<input type="checkbox"/> 長袖シャツ	<input type="checkbox"/> 飲料水	
<input type="checkbox"/> バックパック	<input type="checkbox"/> ビニール袋	
	<input type="checkbox"/> タオル	
	<input type="checkbox"/> ティッシュ	

散策の心得

- ・履きなれたシューズで出かけよう。
- ・自分のペースでゆっくり歩こう。
- ・暑い日には、帽子をかぶろう！
- ・飲み物も携帯しよう！
- ・車には十分注意しよう。
- ・ゴミは必ず持ち帰ろう。
- ・ペットの糞対策も忘れずに！



アクセス



バック・ナンバーは左のHP「散策 普通寺」より閲覧できます。
<http://shigakuweb.jindo.com>

制作・お問い合わせ

四国学院大学・四学ウェブ
 (shigakuweb@yahoo.co.jp)
 制作協力

普通寺市役所土木都市計画課
 (Tel. 63-6314)

参考文献

みちへき遍路 2001

